

## 2021年9月11日 (以前の月例会発表) Quick Index

「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2021」(DIYショウ2021 10/7~9開催)が緊急事態宣言の延長により来場対象が事業者向けのみで制限されました。  
新木場木工交流会は、一般の来場者を対象とした出展を目的としていたため残念ながら出展を取りやめることになりました。

### ドルトンさん

#### ● ツールボックス

18世紀の終わり頃に設立されたアメリカの会社「ユニオン」(日本にも展開している)が、ユニオンツールキャビネットとして1900年代にツールボックス(箱カバン)を作りはじめ、その後いくつかの会社により色々なツールボックスが作られて来た。上部に物入れが付いているものや、フロントパネルの形状に色々なタイプのものがある。今でもツールボックスを製造している会社がある。27万円もするとのこと。(最後の写真)



#### ● ツールボックスを2箱作ってみた

前面にパネル扉が付いており、引出しはダブルテールジョイントを使用している。上部物入れの蓋後部のヒンジはヘリタス社製であるが、それ以外の金属部品はホームセンターで入手したもので、箱が綺麗で立派なので、ホームセンターで購入した金属部品がとても高価なものに見えるとの声が上がっていました。このような箱を作ることで、木工技術の多くを学ぶことが出来ます。



### 松尾さん

#### ● 八角形の転び盆(トレイ)

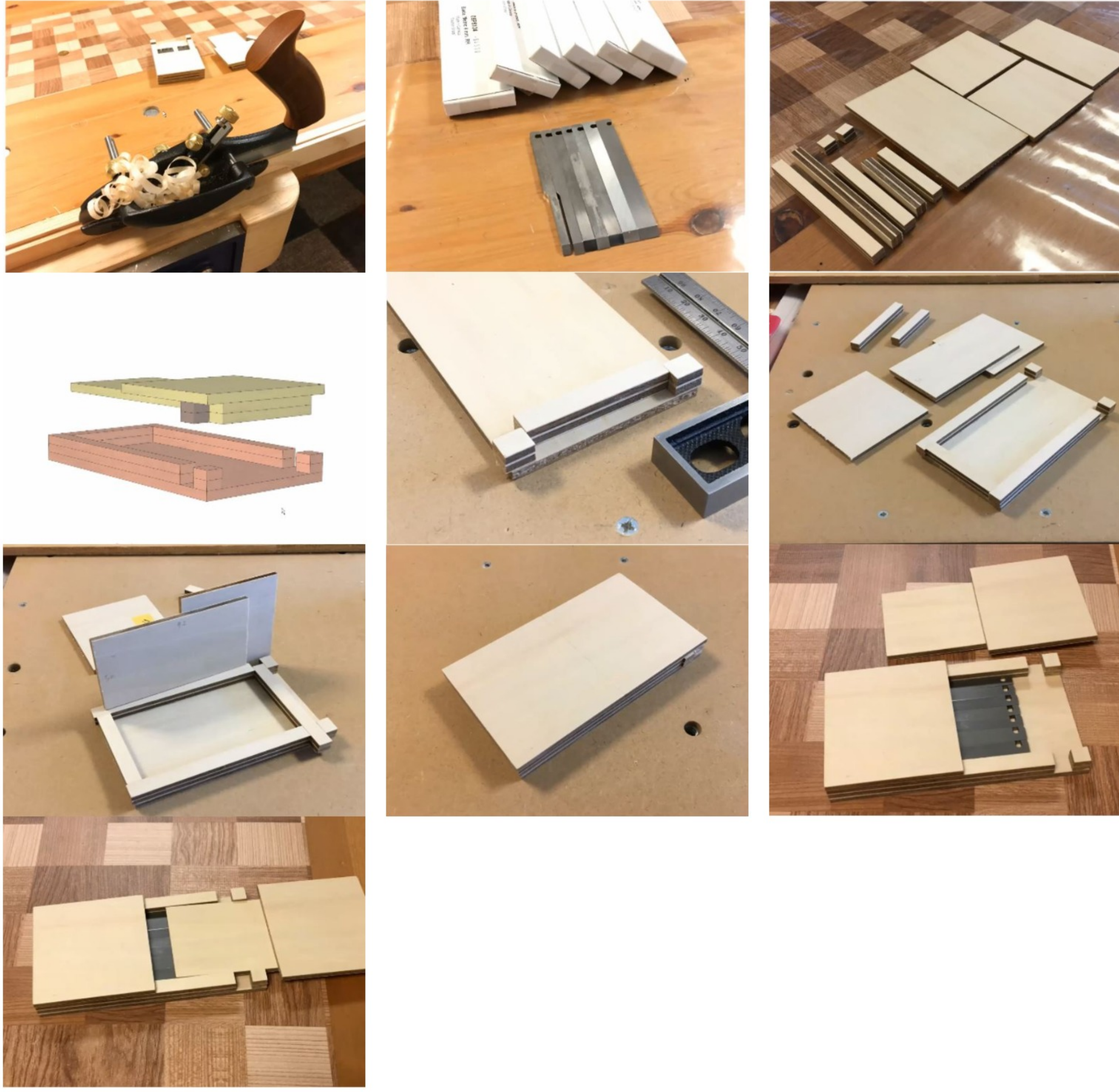
当初は、八枚の部材を位置合わせしながら並べて切り出す治具を考えたが、切り出し寸法に誤差がでた。そこで、一枚づつ左右を切り出す治具に変更した。底板を嵌め込む溝は、転び角度を持たせた治具でトリマーテーブルで加工する。底板は、アクリル板で正確に作った八角形の型板を使って切出す。底板と枠に少し隙間が出来てしまう箇所が出来るのを如何に改善するかが課題。下面から底板を入れる方が枠との誤差(隙間)を気にしなく良いが、お盆(トレイ)として使う目的なので底板が抜けにくい様に上面から落とし込む加工方法を敢えてとっている。



### さくやさん

#### ● 溝掘りカンナのブレード収納ケース

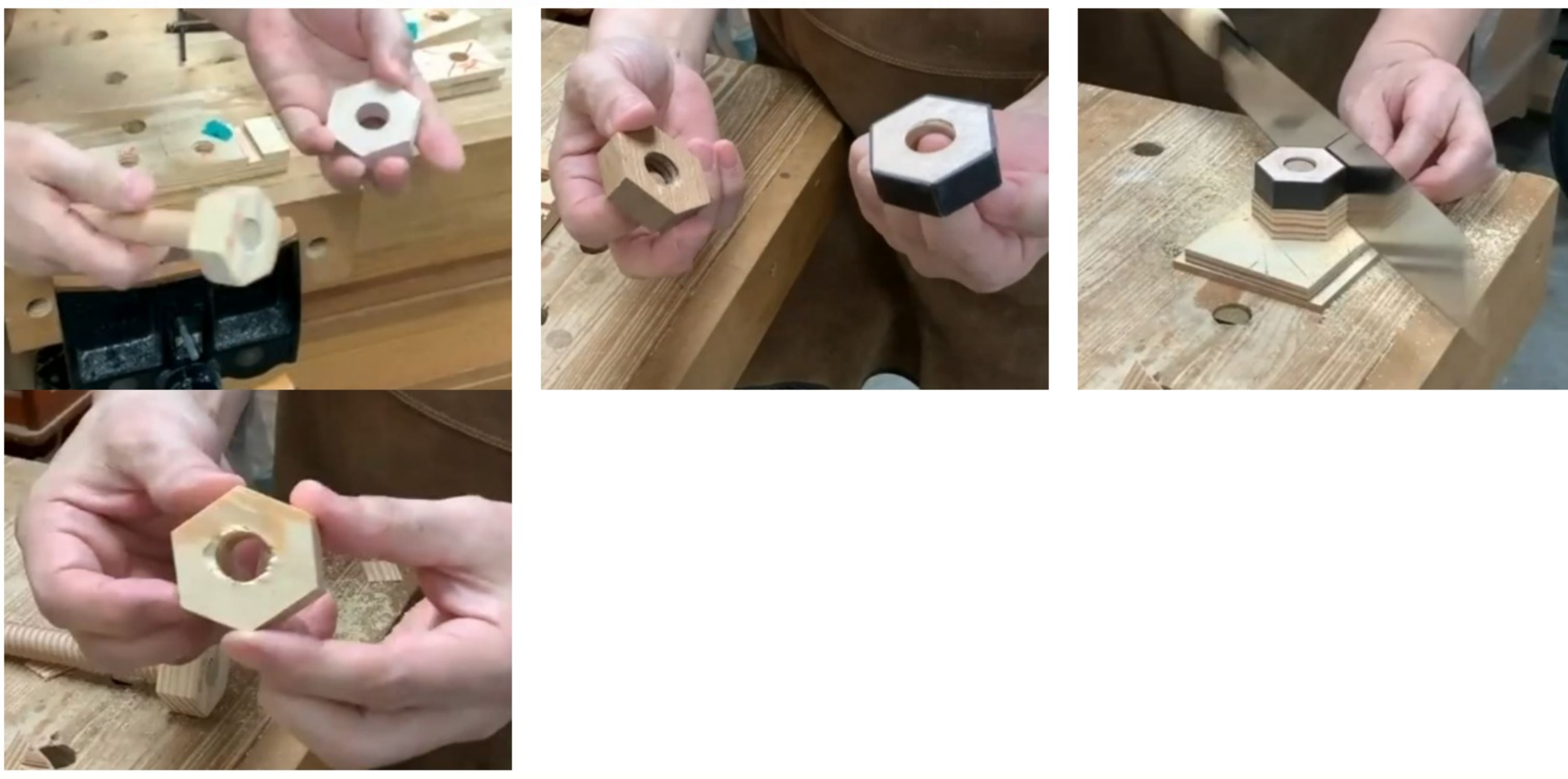
ブレードの厚みが3mm強なので、4mm厚のシナベニアを積層した構造で収納ケースを作った。かんぬきを抜くと蓋が開くちょっとしたカラクリ箱になっている。



### 杉田さん

#### ● 六角形の切り出し〜木のボルトの六角頭 や 木のナット

六角形の部材にマグネットシートを貼った治具を作った。ドッグホールの下から木のボルトを差し込み、まな板になる材を挟んでナットになる板をねじ込む。その上からマグネットを貼った六角治具をねじ込んでマグネットにノコギリを添わせて切っていく。ちなみに、治具用に六角ナットは直角ガイドを用いて丁寧に作ります。



#### ● くさび用の斜め穴の開け方〜研究中

組立式のテーブルの脚と貫を結合する部分のくさび。くさびを通す穴は、一面は木端に対して直角な面となっているが、もう一面はくさびの傾斜角に転んだ面となっている。それぞれの角度をドリルで穴開けするための治具を考えた。治具の当て方によって垂直な穴と傾斜角を持った穴が開けられる。穴の角を四角くしたい場合は、治具の傾斜面を使ってノミで仕上げる。この方法で何回か試しているが、現状ドリルの貫通側の穴の出口がズレています。それが今後の課題。

